

22  
タビタビ  
聖徒伝 106

# 「真実の ささげもの」

歴代誌第一 28～29章 神殿の設計図 イスラエルの捧げもの

# アウトライン

0. イントロダクション

I. 神の宮の設計図 28章

II. 宮のための捧げもの 29章

III. まとめと適用

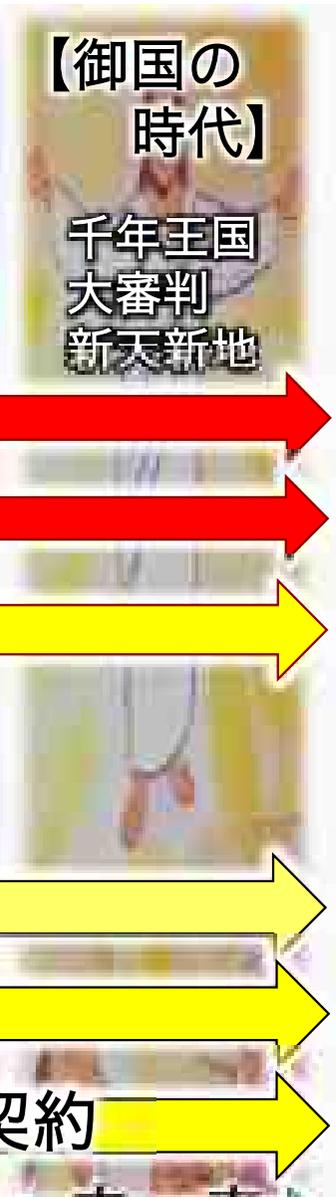
礼拝者のありようを

ダビデに学ぼう

ダビデ篇・完結



神殿の丘・南壁



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

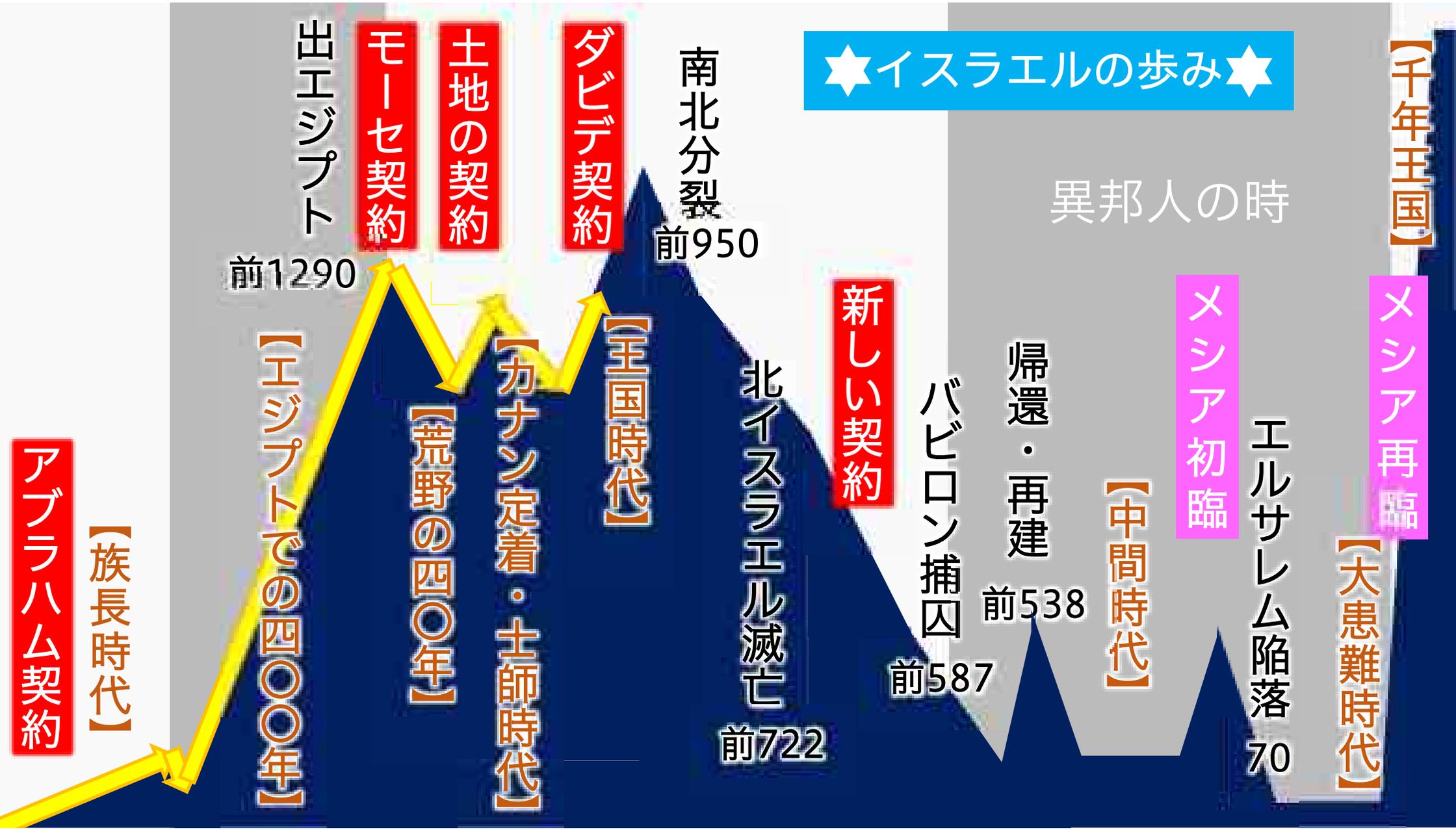
どの時代も  
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



## 歴代誌とは？

- 署名 …ヘブル語聖書 「ディプレ・ハヤミム(その時代の記録)」  
七十人訳聖書 「パラレイポメナ(省略)」
- 著者 …不明。エズラ？(ユダヤの伝承)  
用語、文章構成がエズラ記、ネヘミヤ記に似ている  
→まとめられたのはバビロン捕囚後？(捕囚にも言及)
- 構成 …本来、第一と第二で一つの書。七十人訳で分割。  
歴代誌第一 →サムエル記第一・第二  
歴代誌第二 →列王記第一・第二
- 内容 …イスラエルの祭儀、礼拝、とりわけ**神殿**のこと。

神の栄光は  
神殿に宿る

歴代誌 第一

系図	1～9章	アダムからサウルまでの系図 メシアの系譜 祭司の系譜 12部族それぞれの系譜
サウル王	10章	サウル王の罪と死
ダビデ王	11～12章	ダビデ王の即位 ダビデの軍勢
	13～16章	ダビデと契約の箱
	17章	ダビデの <b>神殿建設</b> の願い → <b>ダビデ契約</b> (17:10～14)
	18～20章	ダビデの勝利
	21章	人口調査と疫病
	22～26章	<b>神殿建設の準備</b> …祭司・奏楽者・門衛の組織
	27章	軍事と政治におけるリーダーたち
	28～29章	ダビデの晩年

神殿建設  
準備に  
スポット



## ダビデのあしどり

- 主はダビデに、ダビデの王家を永遠に守り導くこと、子孫にメシアが誕生することを告げた。 → **ダビデ契約**
- 周辺国の平定間近のある時、ダビデは、**バテ・シェバ**と姦淫を犯し、夫ウリヤを戦死に見せかけ殺害した。
- 息子**アブサロム**に王権を奪われ、ダビデは都落ち。アブサロムがヨアブに討たれた後に、王座に復帰した。
- 買い取った**麦打ち場**が神殿用地と分かったダビデは、建設準備を進め、宮の奉仕のため、祭司を組織した。





# Ⅰ. 神の宮の設計図

歴代誌Ⅰ 28章

旧市街の城壁

## 【招集された全イスラエル】 | 歴代誌28:1

ダビデは、イスラエルのすべての長、すなわち、各部族の長、王に仕える各組の長、千人隊の長、百人隊の長、王とその子たちの全財産と家畜の担当者の長、宦官、有力者、およびすべての勇士たちをエルサレムに召集した。

- イスラエルの主な指導者たちが全員招集された!!
  - ➔ かつてない国家的一大イベントが!!
- ダビデの最後の働きがなされようとしている。



## 【王の呼びかけ】 | 歴代誌28:2~3

ダビデ王は立ち上がって、こう言った。「私の兄弟たち、私の民よ。私の言うことを聞きなさい。私は【主】の契約の箱のため、私たちの神の足台\*のために安息の家を建てる志を持ち、建築の用意をしてきた。

しかし、神は私に仰せられた。『あなたはわたしの名のために家を建ててはならない。あなたは戦いの人であり、人の血を流してきたからである。』

\*神殿を指す。

「さあ主の住まいに行き

主の足台のもとにひれ伏そう。詩 132:7」



## 【ダビデへの神の恵み】 | 歴代誌28:4~5

イスラエルの神、【主】は、私の父の全家から私を選び、**とこしえにイスラエルを治める王\***としてくださった。主はユダの中から君たる者を選び、ユダの家の中で私の父の家を、父の子たちの中で私を喜びとし、全イスラエルを治める王としてくださった。

【主】は私に多くの子を授けてくださったが、私のすべての子どもの中から、私の子**ソロモン\***を選び、イスラエルを治める【主】の王座に就けてくださった。

\*ダビデの永遠の王座を、主の**ダビデ契約**が保証。

\*ソロモン = “平和”の王



## 【主の選びの恵みの内に】 | 歴代誌28:6~7

そして、私にこう言われた。『あなたの子ソロモンが、わたしの家とわたしの庭を造る。わたしが彼をわたしの子として選び、わたしが彼の父となる\*からだ。

もし彼が、今日のように、わたしの**命令と定め**を行おうと固く決心しているなら\*、わたしは彼の王国をどこしえまでも確立しよう。』

\*主がソロモンを**恵み**の内に選び、王とされた。

\*ソロモンの王政の礎も、神の**律法**の上にある。

恵みは常に  
神の一方的な選び



## 【守り、求めるべき律法】 | 歴代誌28:8

今、【主】の会衆である全イスラエルの前で、私たちの神が聞いておられるこの場所で言う。

あなたがたは、自分たちの神、【主】の命令\*をすべて守り、求めなさい。それは、あなたがたがこの良い地を所有し、あなたがたの後、とこしえまでもあなたがたの子孫に受け継がせるためである。

\*モーセを通して与えられたイスラエルの律法

■律法を守り従うことが、王国時代のイスラエルの変わらぬ使命。



## 【ソロモンの使命】 | 歴代誌28:9~10

わが子ソロモンよ。あなたの父の神を**知り\***、全き心と喜びの気持ちをもって神に仕えなさい。【主】はすべての心を探り、すべての思いの動機を読み取られるからである。もし、あなたが**神を求める**なら、神はあなたにご自分を現される。もし、あなたが**神を離れる**なら、神はあなたをとこしえまでも退けられる。

今、心に留めなさい。【主】は聖所となる宮を建てるために、あなたを選ばれた。勇気を出して実行しなさい。」

\*知識にとどまらず、全身全霊で体験的に主を知る。

■確認されるのは、律法に基づく、祝福と呪いの原則。

神を  
求めるか  
離れるか

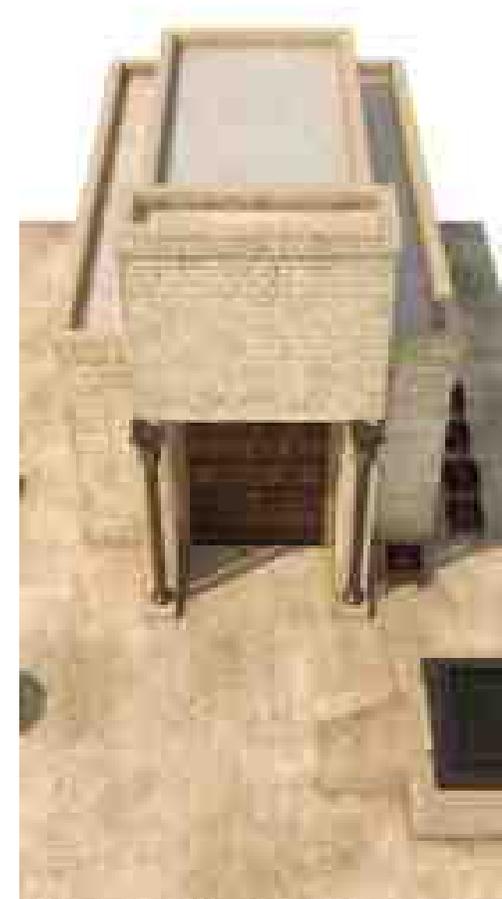
## 【神殿の設計図】 | 歴代誌28:11~13

ダビデはその子ソロモンに、玄関広間、神殿、宝物室、屋上の間、内部屋、贖いの間などの設計図を授けた。

設計図は、すべて**御霊**によって彼に示された\*。すなわち、【主】の宮の庭のこと、周囲のすべての脇部屋のこと、神の宮の宝物倉のこと、聖なるささげ物の宝物倉のこと、祭司とレビ人の組分けのこと、【主】の宮の奉仕のすべての仕事のこと、【主】の宮の奉仕に用いるすべての用具のことである。

\* **聖霊**が、ダビデに神殿の設計図を具体的に示した。

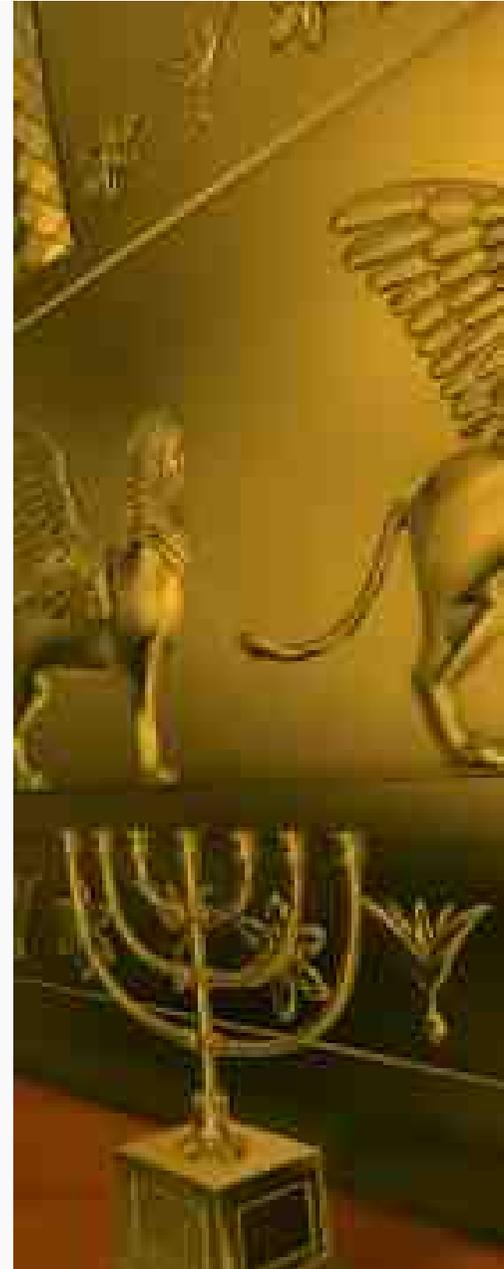
■ 神殿の真の設計者は、**主**ご自身。➡天の宮の影。



## 【器具について】 | 歴代誌28:14~15

金については、各種の奉仕に用いるすべての器具に使う金の重さが、すべての銀の器具については、各種の奉仕に用いるすべての器具の重さが示され、金の燭台とその上にある金のともしび皿の重さは、一つ一つの燭台とその上にあるともしび皿の重さが、銀の燭台については、一つ一つの燭台の用途別に燭台とその上にあるともしび皿の重さが示されていた。

- 膨大な種類の器具があり、燭台だけでも数多く。それぞれのサイズ、重さまで規格されていた。



## 【細部にわたる設計】 | 歴代誌28:16~18

並べ供えるパンの机の金の重さは、一つ一つの机ごとに、銀の机に用いる銀の重さとともに示されていた。

肉刺し、鉢、壺は純金であるが、金の杯については、それぞれの杯の重さ、銀の杯についても、それぞれの杯の重さ、香をたく祭壇については、精錬された金の重さが示されていた。また、翼を広げて【主】の契約の箱をおおう金のケルビムの車\*の設計図も示されていた。

\*天使ケルビムの巨大な像を乗せる台車。

■ 神殿や主要な祭具の付属品、細かな祭具の素材、その個々の重さに至るまで指定されていた。

細部にまで宿る神



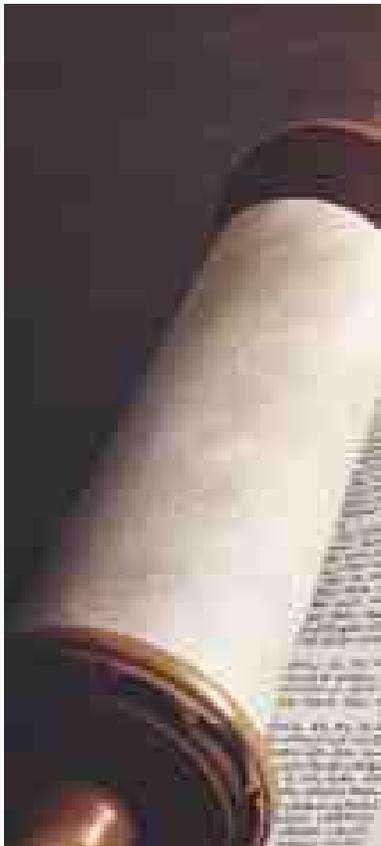
## 【ソロモンへの励まし】 | 歴代誌28:19~20

「これらすべては、私の上に臨んだ【主】の手によって書き物になっていて、仕事の全貌が理解できるはずだ。」

それから、ダビデはその子ソロモンに言った。「強く、雄々しく、事を成し遂げなさい。恐れてはならない。おののいてはならない。神である【主】、私の神が、あなたとともにいてくださるのだから。主は、あなたを見放さず、あなたを見捨てず、【主】の宮の奉仕に関わるすべての仕事を完成させてくださる。」

■ ヨシュアに主が告げられたように、

ソロモンを励ますダビデ。主が成し遂げてくださると。



私たちの働きを  
完遂させて  
くださるのは神

## 【備えられた働き人たち】 | 歴代誌28:21

「見よ。神の宮のあらゆる奉仕のために祭司とレビ人の各組がいる。どんな仕事でも、あらゆる奉仕のために知恵をもって進んで事に当たる者がみな、あなたとともにいる。首長たちとすべての民は、あなたの命令すべてに従う。」

- ダビデが組織した、祭司、レビ人、職人たち、指導者たちが、ソロモンにも忠実に仕えた。
- イスラエルの民も皆、ダビデに従ったように、新しい王ソロモンへの忠誠を誓った。





## II. 宮のための捧げもの

歴代誌 I 29章

神殿の丘

## 【ダビデの奨め】 | 歴代誌29:1

ダビデ王は全会衆に言った。「わが子ソロモンは、神が選ばれた、ただ一人の者であるが、まだ若く力もない。しかしこの工事は大きい。なぜなら、この宮は人のためではなく、神である【主】のためのものだからである。」

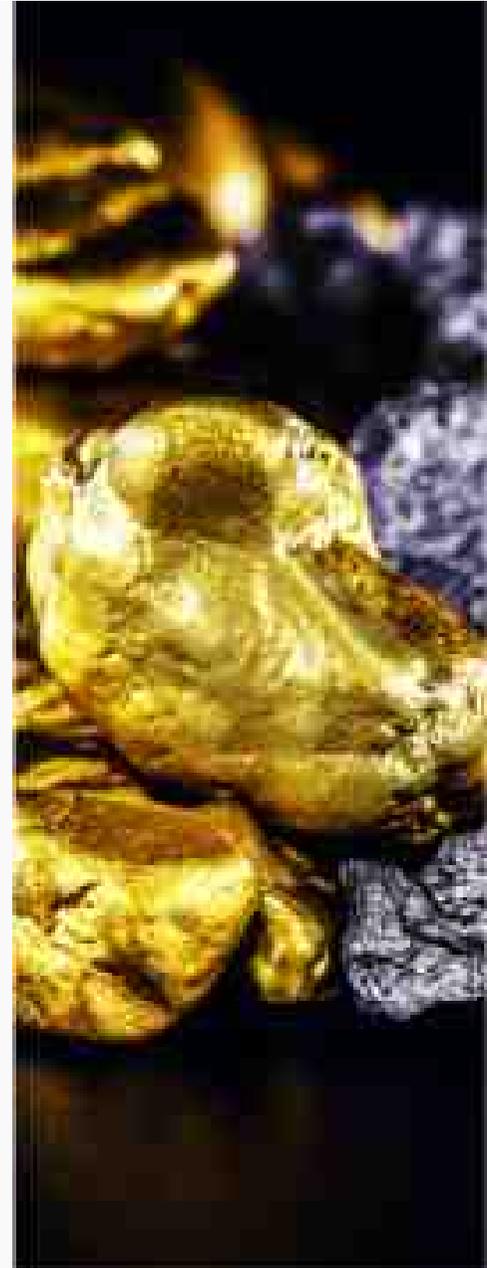
- 神殿建設の重要さ、重大さが告げられ、求められる、民一人一人の献身。  
➔ モーセと民が幕屋を建て上げたように。



## 【ダビデが備えたもの】 | 歴代誌29:2

私は全力を尽くして、私の神の宮のために準備をしてきた。すなわち、金製品のための金、銀製品のための銀、青銅製品のための青銅、鉄製品のための鉄、木製品のための木、縞めとう、色とりどりの象眼細工用の石、あらゆる宝石、大理石などを大量に準備した。

- 神殿建設のため、ダビデは長い時間をかけて大量の資材をすでに準備していた。



## 【ダビデの献金】 | 歴代誌29:3~5

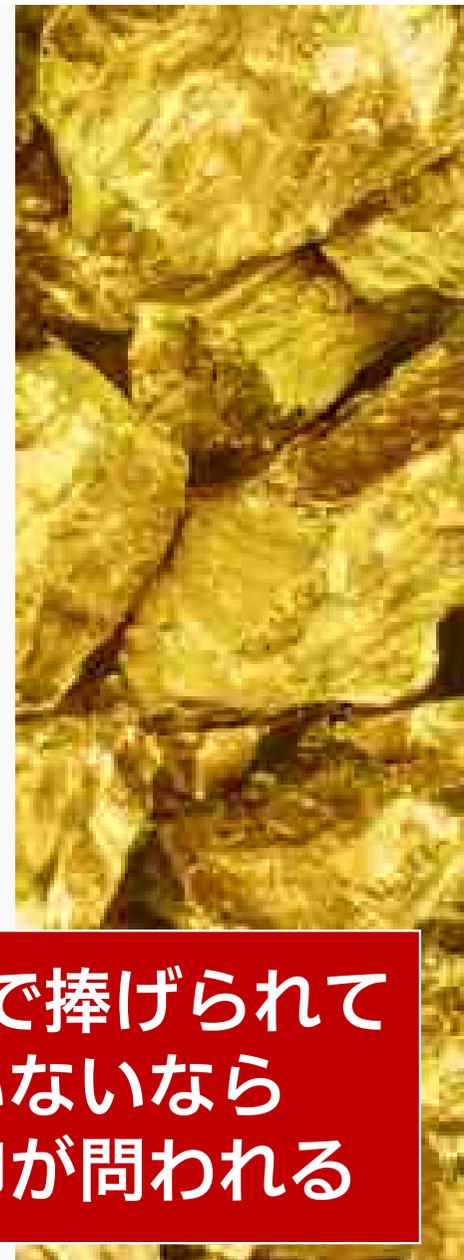
そのうえ、私は、私の神の宮に対する喜びとして、聖なる宮のために準備したすべてのものに加えて、自分の宝としていた金銀を、私の神の宮のために献げる。

建物の壁をおおうため、オフィルの金の中から金三千タラント(102t)と、精錬された銀七千タラント(238t)、金製品のための金、銀製品のための銀、あらゆる職人の手仕事のためのものを献げる。

■ 神殿建設のため、私財を膨大に捧げたダビデ。

→ 心から喜んで。捧げものの大原則。

喜んで捧げられていないなら  
信仰が問われる



## 【民自らの捧げもの】 | 歴代誌29:6~7

「今日、自ら進んで、その手にあふれるほど【主】に献げる者はいないか。」

すると、一族の長たち、イスラエル各部族の長たち、千人隊と百人隊の長たち、さらに王家の執務の長たちは、自ら進んで、神の宮の奉仕のために、金五千タラント(170t)一万ダリク(金貨で85kg)、銀一万タラント(340t)、青銅一万八千タラント(612t)、鉄十万タラント(3,400t)を献げた。

■民が自ら進んで、膨大な捧げものをしたのは、幕屋建設以来のこと(出エジプト36:5)。



## 【民の喜び】 | 歴代誌29:8~9

宝石を持っている者は、これをゲルシヨン人エヒエル\*の手に託して【主】の宮の宝物倉に献げた。

民は、長たちが自ら進んで献げたことを喜んだ\*。彼らが全き心をもって、自ら進んで【主】に献げた\*からである。ダビデ王も大いに喜んだ。

\*レビ人のゲルシヨン人ラダン氏族の長(歴 | 23:8)。

\*長たちの捧げものは、民の捧げものでもあった。

\*再度強調される、捧げものの大原則。

➔完全に主に信頼して、自発的に喜んで献げる。



## 【主を誉め讃えよ】 | 歴代誌29:10~11

ダビデは全会衆の前で【主】をほめたたえた。ダビデは言った。「私たちの父イスラエルの神、【主】よ。あなたがとこしえからとこしえまで、ほめたたえられますように。

【主】よ、偉大さ、力、輝き、栄光、威厳は、あなたのものです。天にあるものも地にあるものもすべて。

【主】よ、王国もあなたのものです。あなたは、すべてのものの上に、かしらとしてあがめられるべき方です。

■主なる神の特性について、ありったけの言葉を並べ、主を誉め讃えるダビデ。礼拝者としての真実の姿。

あなたのすべてで  
主のすべてを讃えよ



## 【すべてを主に委ねて】 | 歴代誌29:12~13

富と誉れは御前から出ます。あなたはすべてのものを支配しておられます。あなたの御手には勢いと力があり、あなたの御手によって、すべてのものが偉大にされ、力づけられるのです。

私たちの神よ。今、私たちはあなたに感謝し、あなたの栄えに満ちた御名をほめたたえます。

■ 王の栄誉もイスラエルの名声も、すべては、主の御手にかかっている。

➡ **すべてを主に委ねて、主を讃えよ。**



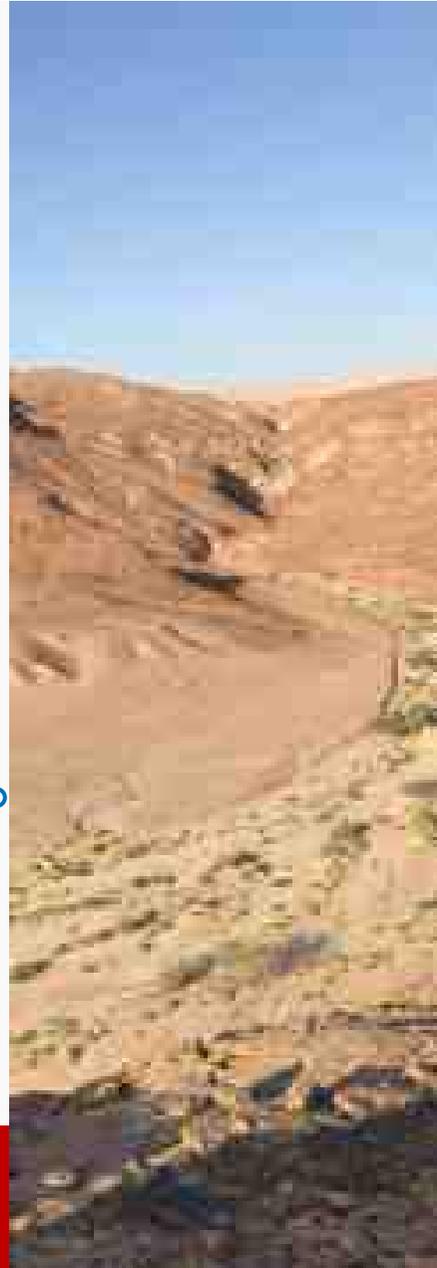
## 【信仰者のアイデンティティ】 | 歴代誌29:14~15

このように自ら進んで献げる力を持っているとしても、私は何者なのでしょう、私の民は何者なのでしょう。すべてはあなたから出たのであり、私たちは御手から出たものをあなたに献げたにすぎません。

私たちは、父祖たちがみなそうであったように、あなたの前では**寄留者**であり、居留している者です。地上での私たちの日々は影のようなもので、望みもありません。

■ 信仰者は地上においては、寄る辺もない**寄留者**。

**誇る者は主を誇れ。おのれには何もなくていい。**



## 【主に真っ直ぐな者】 | 歴代誌29:16~17

私たちの神、【主】よ。あなたの聖なる御名のために宮を建てようと私たちが準備したこの多くのものすべては、あなたの御手から出たものであり、すべてはあなたのものです。

わが神よ。あなたは心を試される方で、真っ直ぐ\*なことを愛されるのを私はよく知っています。私は直ぐな心で、これらすべてを自ら進んで献げました。また今、ここにいるあなたの民が、自ら進んであなたに献げるのを、私は喜びのうちに見ました。

\*真っ直ぐ。正直、実直。主の前に偽りがいないこと。



## 【心を守り、主に向けよ】 | 歴代誌29:18~19

私たちの父祖アブラハム、イサク、イスラエル(ヤコブ)の神\*、【主】よ。御民が心にめぐらす思いをとこしえに守り、彼らの心をしっかりとあなたに向けさせてください。

わが子ソロモンに全き心を与え、あなたの命令とさとしと掟を守らせて、すべてを行わせ、私が準備してきた宮を建てさせてください。」

\* 契約の恵みの神。イスラエルの神のフルネーム。

■ 「私の心を守り、使命を果たさせてください」と、主に祈っているだろうか？



## 【全会衆による礼拝】 | 歴代誌29:20~21

そして、ダビデは全会衆に「あなたがたの神、【主】をほめたたえよ」と言った。すると全会衆は、父祖の神、【主】をほめたたえ、【主】と王の前に身をかがめてひれ伏した。

その翌日、彼らは【主】にいけにえを献げ、【主】に全焼のささげ物を献げた。雄牛千頭、雄羊千匹、子羊千匹、これらに添える注ぎのぶどう酒、また全イスラエルのための多くのいけにえを献げた。

■主の前にひれ伏し、捧げ、主を礼拝した民。

打ち砕かれた、この身のすべてを主に献げよう



## 【主との和解の犠牲・食卓】 | 歴代誌29:22~24

その日、彼らは大いに喜んで、【主】の前で食べたり飲んだりし、改めてダビデの子ソロモンを王とし、【主】の前で油を注いで君主とした。また、ツアドクを祭司とした。

こうしてソロモンは【主】の王座に就き、父ダビデに代わって王となった。彼は栄え、全イスラエルは彼に聞き従った。

すべての首長たち、勇士たち、そしてダビデ王のすべての息子たちも、ソロモン王に忠誠を誓った。

■イスラエルは、主が立てた王ソロモンに従った。



## 【ダビデ最後の最大の務め】 | 歴代誌29:25~27

【主】はソロモンを全イスラエルの目の前に非常に大いなる者とし、彼より前にイスラエルを治めたどの王にも見られなかった王の威厳を、彼に与えられた。

このようにして、エッサイの子ダビデは全イスラエルを治めたのである。

彼がイスラエルの王であった期間は四十年であった。ヘブロンで七年治め、エルサレムで三十三年治めた。

■ リーダー最大の仕事は、**次代のリーダーに継ぐこと。**

➡ ソロモンを王とし、**ダビデの王の務めは終わった。**



## 【ダビデの最後】 | 歴代誌29:28

彼は幸せな晩年を過ごし、**齢も富も誉れも満ち足りて死んだ**。彼の子ソロモンが代わって王となった。

- **ダビデの享年70歳**。歴代の聖徒たちと比べればはるかに短い年月。**過酷な生涯**がうかがえる。
- 歴代誌は、**幸せな晩年、満ち足りた死**と記す。主を慕い求め続けた、**真実の礼拝者**の生涯だった。
- 重大な罪も犯したダビデだが、信仰ゆえに赦され、神の目には、**永遠の王座**につく者とされている。

**私たちに約束された等しい恵みを覚えよう**

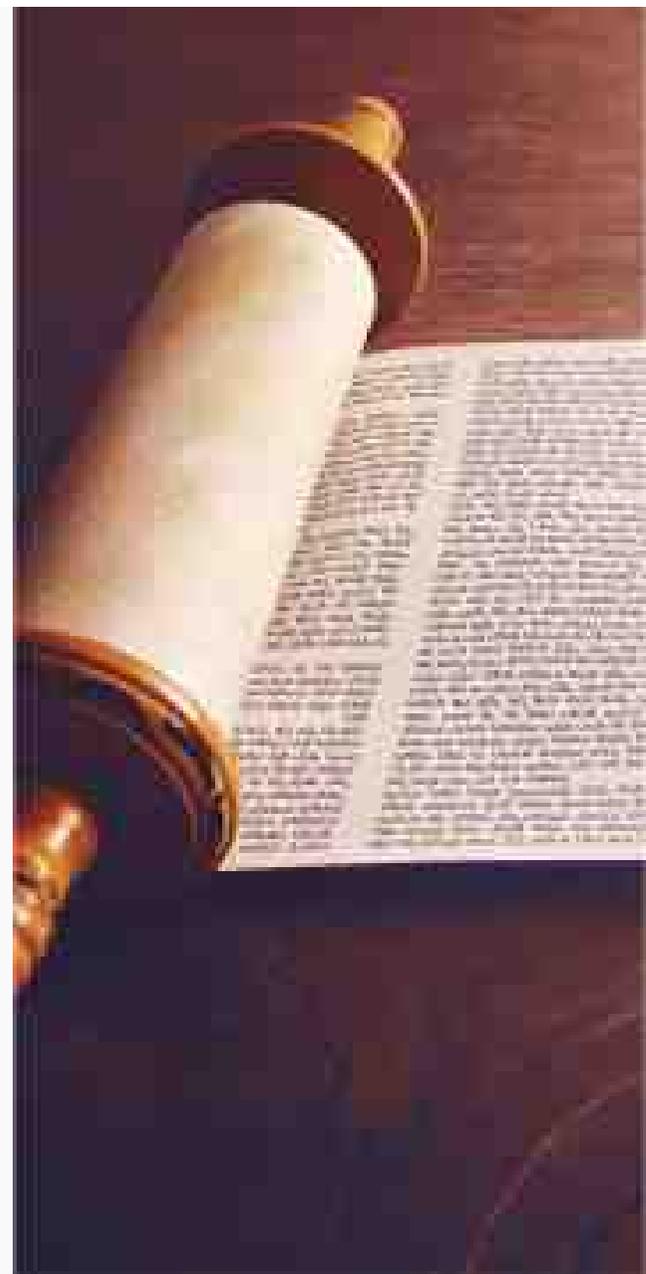


## 【ダビデの最後】 I 歴代誌29:29~30

ダビデ王についての事柄は、最初から最後まで、『予見者サムエルの働き (Iサムエル1~24章)』、『預言者ナタンの働き』、『先見者ガドの働き』 (Iサムエル25章~IIサムエル24章)にまさしく記されている。

そこには、彼の統治のすべてとその功績、また、彼とイスラエル、および諸国のすべての王国の上に過ぎていった時代についても記されている。

■ダビデの功績は、**聖書**に永遠に刻まれた。





## IV. まとめと適用

礼拝者のありようをダビデに学ぼう

## 【ダビデの生涯に学ぶ礼拝者としての姿】

- ダビデの生涯の二大礼拝。①**契約の箱**を都に運び上げたとき。  
②**神殿**建設準備を完了したとき。
- 「**直ぐな心で主に従った**」 →ダビデの最大の評価。  
実直に主に向き合い、主の命令に従い、主を慕い求め続けた。  
大きな罪を犯したが、甘んじて懲らしめを受け、なお主を求めた。
- 人生の頂でも谷間でも、どんな時も**主を求め続ける**のが、礼拝者。  
主の栄光を帯びるときにも、たとえ罪を犯した時でも、  
打ち砕かれた**自分自身を喜んで主に献げる**のが、礼拝者。

## 【ダビデに学ぶ礼拝者の姿】

■ 礼拝者に求められる2つのこと。①直ぐな心で ②献げること。

①直ぐな心 …主の前に正直に。ごまかさず己の現実を見つめて。

→人の心を見られる主は、礼拝の動機、本質を問われる。

罪に陥った時には、打ち砕かれ、悔い改めた心を献げるべき。

②献げる …求められる言行一致。献げるのは礼拝における行動。

→聖書において、捧げものを伴わない礼拝はない。

主の働きのための献金、献品を。もちろん、自発的に喜んで。

心から喜んで、自分自身を献げているのか？

## 【私たちが礼拝から離れる時とは？】

- 主への礼拝から離れている。→間違いなく、**不信仰**が極まった状態。
- 教会を離れていった人々の共通点。→**自分の思い**を手放せなかった。
- 礼拝で満たされないのは、**自分の満足**を求めているから。  
求めるべきは、**主が満足されること**。  
主が満足される礼拝を献げるなら、自ずと喜びは溢れ出てくる。
- 主が私に満足されることとは何か？  
**聖書の御言葉**から確かに聴き取り、**実行**に移しているだろうか？

## ヨハネ福音書4:23～24

しかし、まことの礼拝者たちが、**御霊と真理によって父を**礼拝する時が来ます。今がその時です。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられるのです。

神は霊ですから、神を礼拝する人は、**御霊と真理によって**礼拝しなければなりません。」

## 【御霊と真理による礼拝をささげよう】

- 今、福音を信じたすべての人の内に、**聖霊**が住まわれている。**聖霊**の最大の働きは、**真理の御言葉の理解**を助けてくれること。
- 礼拝の中心は、まぎれもなく、**御言葉の解き明かし**にある。聖書の理解が深まるほどに、罪と赦しの陰影が浮かび上がる。打ち砕かれたこの身を、喜んで自ら主に献げよう。
- 主の尊い働きのための必要を覚えて、**心から喜んで献げよう**。イスラエル伝道、地域伝道のために、主の計画の前進のために。

**聖霊の導きに従い、主の喜ばれる真実の礼拝を献げていこう**

- 「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
  - ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
  - ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

主は、このわたしを きよめられた捧(ささ)げものとして  
受(う)け取(と)ってくださいます。

おどろくばかりの この恵(めぐ)みを ただよろこんで  
味(あじ)わい尽(つ)くしていくことが できますように。  
ダビデのように、霊(れい)と まことの礼拝(れいはい)を  
ささげる者と してください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」